果樹病虫害発生予察調査結果（8／25調査分）
（三条、加茂、田上地域）

8月25日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

（共通）

- ナシヒメシンクイの誘殺数が増加傾向です。例年、**9月上旬**が誘殺ピークとなります。収穫期が近い品種へのドリフトに注意しながら、定期的な防除を継続しましょう。
- 一部で、**ハダニ類**の発生が確認されています。9月中旬頃までに、主幹や主枝基部に古布や古新聞を巻き付け、2月中旬までに外して処分するバンド誘殺を行い、越冬数を減少させましょう。ナシヒメシンクイ等にも有効です。

（ナシ）

調査地点ごとに5新梢、10果を調査しました。

- **セイヨウナシ褐色斑点病**は新梢葉での発生が増加しています。また、一部では果実への発病も確認され、今回の調査では、約1割のり病果が確認されました。次年度の菌密度を下げるため、満遍なく薬剤がかかるようSSの走行路に注意し、ほうき枝となりそうな徒長枝は、8月末までに整理しましょう。
- 一部で、**黒星病**の発生が確認されています。発生量の少ない状態が続いていますが、暑さが落ち着くと多発生が懸念されます。り病葉・り病果を確認した場合は早期に除去し、感染拡大を防ぎましょう。

（モモ）

調査地点ごとに5新梢を調査しました。

- **せん孔細菌病**は一部園地において、新梢葉への発病が確認されています。秋季感染は翌春の春型枝病斑の増加につながるのので、収穫後防除を実施し被害防止に努めましょう。

(ブドウ)

調査地点ごとに100葉を調査しました。

- 一部園地でチャノキイロアザミウマの発生が確認されています。
確実に防除を実施し、被害防止に努めましょう。

次回調査は9月10日(水)を予定しています。

担当 : 中越支所 果樹共済係
TEL : 0258-36-8105
FAX : 0258-34-8020